

(提言)「歴史総合」に期待されるもの」

## 1 現状及び問題点

日本の高校歴史教育は、暗記中心の大学入試も影響し、思考力を培うよりも「知識詰め込み」型に陥る傾向が強く、生徒が興味や関心を持ちにくくなっている。その上、小中学校の社会科歴史分野が日本史中心であるため世界史的な関心が薄くなりやすい。こうした現状は、グローバル化の時代にふさわしい歴史認識を育てる上で大きな問題である。

グローバルな視野の中で、現代世界とその中における日本の過去と現在、そして未来を主体的・総合的に考えることを可能にする歴史教育をめざし、従来の「世界史」と「日本史」を総合した新しい科目を開設することが重要になっている。しかし中央教育審議会が「歴史総合」(仮称)と名づけ議論を進めている新科目の内容については、時代の流れに沿って学ぶのが難しくなる恐れがあることなど慎重な考慮を要する点が見られる。

## 2 提言の内容

### (1) 「歴史総合」では、時系列に沿って学び、主題学習を重視する

時代の流れに沿って7つ程度に時代を区切り(本文に例示)、それぞれに6時間程度を充て、この科目の骨格を構成することを提案する。

加えて、歴史への関心を高め、その理解を深めるため、いくつかの主題学習(本文6に例示)を授業展開の主要な軸とすべきである。

### (2) 15-16世紀以降の近現代を中心に学ぶ

世界各地で異なった文明が興り緩やかにつながっていく時期(15世紀以前)と近現代を形成する諸要素が世界各地で形成されていく時期(16~18世紀)に簡潔に触れた後、近現代世界が明確な形をとって出現する時期(19世紀)と近現代世界が展開する時期(20世紀以降)を中心にするのが望ましい。

### (3) 世界と日本の歴史を結びつけて学ぶ

他の地域から孤立して日本が存在したわけではなく、東アジアをはじめ欧米も含む世界各地と多種多様な結びつきを形成し、相互に影響を与えあいながら日本の歴史が存在したことに留意し、日本が侵略した地域や植民地化した地域の歴史にも目を配り、関連する問題を広く認識することが重要になる。

### (4) 能動的に歴史を学ぶ力を身につける

必修科目である「歴史総合」は、生徒の多様な将来展望を考慮して、細かな知識の獲得に終始することなく、能動的な学習を通じて生涯にわたって歴史を学

び続ける力の獲得を促すものでなければならない。

#### (5) 教員養成と現職研修の重要性

「歴史総合」を軌道に乗せるうえでは、それを高校で実際に教える教員の問題に留意しなければならない。大学における教員養成段階では実践的指導力の基礎づくり、現職研修の段階では、個々の課題の明確化などが考えられる。両段階において高校教員と大学教員が密接な関係を持ち、各課題に向き合っていくことが必要であり、既存のいわば知識中心の高校歴史教育のイメージを問い直し、授業イメージを再構築していく機会が不可欠である。

#### (6) 大学入試改革と「歴史総合」科目

「歴史総合」また大学入試センター試験や各大学の個別入試の中で、「歴史総合」科目に対し然るべき位置を与えることも、非常に重要になると考えられる。とくに現在、2020年度導入予定で準備が進められている新共通テスト「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の中で歴史関係科目を適切な形で位置づけ、「歴史総合」科目をそこに含ませていくことが求められる。